

## 令和4年度 個別記録票「i-ファイル」に関するアンケート実施結果報告

## 【目的】

平成21年4月から「i-ファイル」を配付し、10年以上の年月が経過しており、平成27年に、利用者アンケートを実施しているが、その後、子ども発達センターの利用児や保護者等を取り巻く社会状況は大きく変化している。

保護者がどのように「i-ファイル」を活用しているか、また、「i-ファイル」についてどのようなニーズがあるのかを調査し、今後の改善点を検証する。

## 【対象】

1 次に該当する調布市内在住の子どもの保護者の方

- 令和4年度子ども発達センター利用児（通園あゆみ・3～5歳児グループ療育利用児）
- 令和3年度子ども発達センター卒園児（子ども発達センターお知らせメール登録者のみ）
- 公立小・中学校の特別支援学級在籍の小学校5年生、中学校2年生
- 都立調布特別支援学校と府中けやきの森学園在籍の小学部5年生、中学部2年生，高等部2年生（高等部2年生は、府中けやきの森学園のみ）

2 調布心身障害児・者親の会に所属している保護者の方

【実施方法】 インターネット調査（LoGoフォーム）

【実施期間】 令和5年1月5日（木）から2月10日（金）まで

【回答件数】 104件

## 【回答結果の公開】

令和5年3月10日（金）から、調布市ホームページにおいて公開中



## 【回答結果概要】

- i-ファイルを持っていない理由として、「i-ファイルがあることを知らなかった」「知っていたが、どういうものか分からなかった」という回答が半数以上となっており、改めて、保護者への周知が必要である（設問5）。
- i-ファイルの使用方法としては、「関係機関が作成した書類のファイリング」や「成育歴や受診歴・支援の経過などの記録」として使われていることが多い（設問6）。一方で、現在のi-ファイルの書きにくい項目として「支援の経過」という回答が多く（設問8-2）、また、現在のi-ファイルに付け加えたら良いと思う項目として「発達検査歴」や「利用している福祉サービスと事業所名」の回答が多い（設問8-3）。発達検査結果報告書等のファイリングや、成育歴等の記録として使われているという実態に合ったシートの追加・見直しが必要である。
- i-ファイルの使用場面について、「就学相談のとき」に使ったという回答が多い（設問7）。しかし、就学相談や学校への入学時等に必要とされなかったというコメントも多く、保護者が作成したi-ファイルが活用できていない。関係機関の職員への周知も必要である。
- i-ファイルを使用して「良かったと思う」と回答した人は55.9%で、「良かったと思わない」8.8%、「分からない」35.3%となっている（設問7-1）。各回答を選択した理由（設問7-1-1～3）をみると、「良かったと思う」と回答した人は、子どもの情報をまとめることができる、必要な情報を探しやすい、分かりやすい等、i-ファイルの目的を実感している人が多く、i-ファイルを活用できているかが満足度に影響していることが分かる。i-ファイルの使用方法や使用場面について周知・啓発する必要がある。また、i-ファイルを実際に活用している保護者が、i-ファイルをどのように作成しているかや、どのような場面で使用したか等について、保護者同士で共有できる場がないため、講習会など、保護者が情報交換・情報共有できる場の開催を検討する必要がある。
- i-ファイルの形状やサイズについて、「現状のi-ファイルと同じ」ものを希望する回答が多い一方、データで管理することを希望する回答も多い（設問9、設問10）。i-ファイルの記入シートは、調布市ホームページにおいてWordデータ及びPDFデータでダウンロードできるようにしているが、ファイルを配付する際に案内する等、改めて周知が必要である。また、書類のファイリングとして活用している保護者も多いため、i-ファイルを使用する保護者が、それぞれのニーズに応じてファイルとデータを選択できると良い。